



動物園飼育日記—113—亀井一成



ないしょ話シリーズ△35▽

チンパンジーの性教育



類人猿の交尾行為は本能だけのものではない。親をなくすとか未熟児のため、やむを得ず人手で育った場合、特にチンパンジーでは性成熟に達しても交尾行為を知らない場合が時折りある。

■“ひよっとしたら、そのようなことになりかねない”。

かつて、日本初という人工育児をはじめた姉、チェリーと双児の弟、金と銀たちに、たえず持ち続けたのが、そうした“性教育”問題だった。

チンパンジーの妊娠期間七・五カ月、母親の体重五五キロ。赤ん坊の大きさ一・八キロ。

生後一カ月。眼が見えはじめる。

生後三カ月。ヨダレ、歯が生えはじめる。

生後六カ月。歩きはじめ知能の発達が目立つ。

満一年。生時体重の六倍に成育。

一年二カ月、乳歯二十枚発生完了。この頃より幼児期に入る。同時に相手に組みつき、互いに馬のりになろう

とする。つまりマウント行為が見られだす。人工でしかも独り子相手のいない場合では、玩具にまたがり馬のりになるかと思えば、あやしてやる私の足にのりかかってはマウントを見せはじめた。

生後五年頃より非常にゆっくりと永久歯に生えかわりはじめる。

生後六年、メスの臀部の腫張が見られ、オスに對し、あいさつ行動のひとつとして、その尻をつきだしはじめるが、人工の場合ほとんど見られない。つまり群育ちとの差異が認められはじめ。

生後八年、メスの場合初潮がはじまるが、オスの場合では本交尾を認める個体がでてくる。

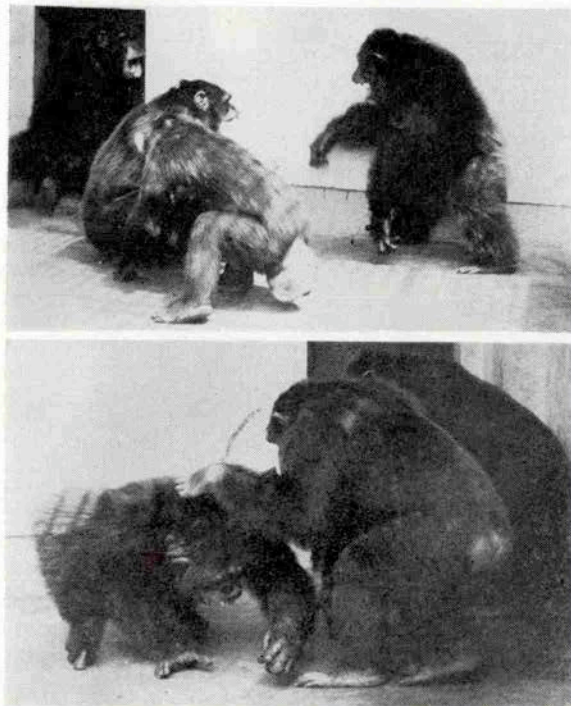
生後十年。最後の犬歯が生えかわり、永久歯三二枚となる。そしてオス、メス共に性的に成熟する。この間をまとめてみると、ちょうど人間の二倍のはやさで成長するのがお分りのはずである。

ところが、この年令に達しながら、交尾行為ができな
いまま、マスタベーションをおぼえ、
たとえ“つれあい”と同居させても、
いっこうにむすばれない。時にはそう
した不自然な一生を経てしまうものさ
えある。

そこで、私は早くから親たちと同居
させようと何度も試みたが、親の排他
性が強く、危険なためやむを得ず段階
的に同居させることになった。

つまり、野生育ちの親たちと隣りあ
わせでの生活を生後四年頃よりさせる
ことにしたのだ。

そこで、類人猿舎の構造にも配慮し、
隣室との壁は見通せる格子仕切を設け
てやった。するとどうだろう。眼で学
習を受ける彼等は常に互の生活をのぞ
きあっていることに気づいた。異常を



上：総攻撃をうける父ジョニー 下：防戦の父ジョニー



抱き合い交尾をはじめた銀と若メス

わだち紅く腫れるためには、入園客より病気ではないのかと、案ずるあまり注意を下さることがある。だが、その腫張期も約二週で退縮期に入り、もうメスはオスを許容しなくなる。つまり本交尾はメスの性皮腫張期だけに認められることが分った。このメスの性サイクルは性皮の腫張変化をグラフに記録することで正確に認知することができ、必ず個体別にそのサイクルを記録しておいた。それはもちろんのこと、人工育ち、双児のオス金と銀ちゃんにおヨメさんをもたらしてやるためのもので、実は似合いのメスがやってきていたのである。できれば直ぐにでも同居させてやりたいのはやまやまであったが、生理的な同居可能期を見計ってやることが大切で、長い間分離飼育を続けていたのである。

だが、そのメスに関心を示しはじめたのは金と銀だけではなく、父親のジョニー。それにライバル意識の隠しきれない姉チェリーもそうであった。

いよいよその日。私は父親ジョニー（野生育ち）。新着の若メス。姉チェリー。双児の弟、金と銀。計五頭を同時に同居させてみた。

見えない隣室からの同居でない、互いに鼻をつき合せ警戒しあうこともなく、ばーと激しく体当りをくらわし、咬みつきあつたのは、やはりジョニーと金、銀。つまりオス同士が争いが同居の幕あけだった。

それは気力と体力の闘いに見え、初めは気力で上位だったジョニーが、やや暫くして体力の続く若い金と銀の逆襲が目立ち、最後には姉チェリー、さらには若メスも加わり、父親ジョニーへの総攻撃がはじまり、ついには血まみれにうずくまってしまったのである。

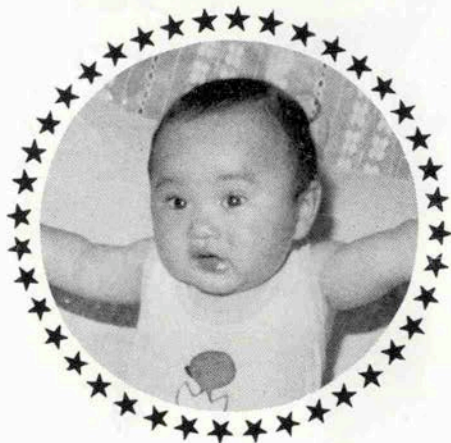
この激しい争いも約二〇分そこそこ。その中には、ジョニーの方が金と銀にベニスを出して抱きつき、あいさつ行動を見せはじめた。そして、銀は金を寄せつけず若メスへの交尾も行い。さらにはジョニーがチェリーへの交尾を私は現認したのであった。

知らせる警戒の声にただうろろ声での共鳴だけで終ってしまいう見えない隣室の場合とちがって、両隣りの見渡せる彼等は、さっと格子越し、顔をのぞかせ、さらには手足をつきだし触れあつては、ちゃんと群社会の組立てを行っているのである。

もちろんのこと、成獣の行交尾行為もまた、じつと格子にしがみつき「のぞき」続けていた。

メスの生理はおよそ三十五日のサイクルでやってくる。約三日間の出血のち、一週頃より性皮の腫張がき

こんにちは赤ちゃん



松井幸一ちゃん／神戸市東灘区

完全看護★冷暖房完備★病院前駐車可能

芦屋 柿沼産婦人科



芦屋市大柁町1番18号
国道芦屋川電停東50米(明治生命南)
☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

幼児歯科 小児歯科

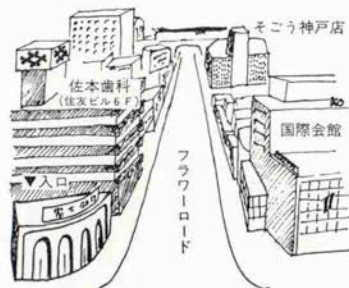
SAMOTO PEDIATRIC DENTISTRY

佐本小児歯科

母親教室

(初診日) 火曜日 午前9時30分
金曜日 午後1時30分
(木曜日は休診)

そごう前センター街東角・さんちか入口
住友銀行三宮ビル6階
〒650 生田区加納町5丁目39
TEL (078)331-6302-3



幻の国際画家兵庫県立近代美術館で

知っていますか 国吉康雄

伊藤

誠

(神戸新聞文化事業局事業部長)



『アダムとイヴ（人間の墮落）』国吉康雄（1922）

日本人画家で、世界的に大きな評価を得た人——という、さてだれを思い出すだろう。まずは「藤田嗣治」の名を浮かべる人が多いに違いない。そして「国吉康雄」と挙げる人がいれば、その人はかなりの美術愛好家あるいは通ということになりそうだ。しかし、実は国吉は藤田に勝るとも劣らぬ二十世紀前半の世界画壇にとって欠かせぬ重要な人物なのである。

それならばどうして、藤田に比べて国吉の紹介が、日本では余りなされなかったのだろうか。一つは戦前の日本の美術界がフランス一辺倒で、他国へは余り目を向けなかったこと。二つには、藤田がフランスと日本をしばしば往来して日本でもかなりの比重で作品発表をし種々の話題をまいたのに対し、国吉はアメリカでの製作活動に的をしぼり、十七歳で単身渡米して以来、名を成した後、戦前に一度父の危篤に際して帰国した以外、日本へ帰らなかったということも考えられる。もっともこれには第二次世界大戦という日米両国の離反事情が大きくからんでも来るのだが。

そして、日本からの移民であるという情況、戦う在住国と祖国との間にはさまれて悩むという特殊事情が、孤独感、哀愁感といった国吉芸術の特性を育ててみいるのだから、人間どのような立ち場に置かれても、くじけてはならぬといったファイトをも感じさせてくれる。

国吉康雄は明治二十二年（1889）岡山市に生まれ、昭和二十八年（1953）ニューヨークで没した。享年

六十三歳。現在十二月二十一日まで兵庫県立近代美術館で開催中の「国吉康雄展」は、国吉研究の第一人者であるドナルド・グドル博士（テキサス州立大学美術館長）とサラ・国吉未亡人によって組織され、アメリカ、日本、カナダを巡回中の国際美術展である。主催は兵庫県立近代美術館と神戸新聞社。内容一六〇点の借用先は、ニューヨーク近代美術館、メトロポリタン美術館、ホイットニー美術館、フィラデルフィア美術館ほか。日本国籍のままアメリカ現代画壇を代表する一人となった世界的な芸術家、多くの日本人にとっては「幻の画家」クニヨシを再認識する格好の展観といえよう。

十一月十五日～十二月二十一日
毎月曜日休館（十一月二十四日は開館）
午前十時から午後四時三〇分（閉館五時）
入館料は、一般五〇〇円、大高生四〇〇円、中小生三〇〇円。

国吉康雄（一八八九～一九五三）は岡山に生まれ、十七才で単身渡米苦学しながら絵画の勉強を続け、ついには現代アメリカ画壇を代表する画家になりました。初期のプリミティブな空想的、幻想的な手法から、その後の女性像シリーズ、静物画、風景画に至るまでそこにはいずれも現代社会の中での人間の孤独な撤退感が漂っており、独特な世界を展開しています。本展は国吉研究の第一人者であるドナルド・グドル博士及びサラ・国吉未亡人により、本年二月から一ヶ年に渡りアメリカ、日本、カナダの順で行なわれる巡回展として組織されたものです。

『デイリー・ニュース』国吉康雄（1935）



●西ドイツでもサッスーンカットが



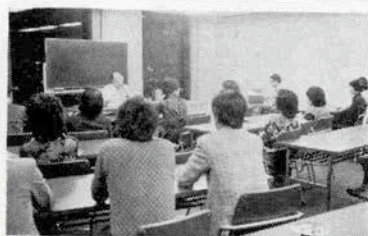
上はドイツの新聞に載った酒井さん(左)

K. F. S. 会員一期生の酒井正子さん(シオン美容室)からヨーロッパ通信が到着。「今、9月21日神戸を離れ22日から西ドイツケルン近くの O den thal a salon Lepvich に勉強に来ています。写真のオーナーの彼は各ヨーロッパで開かれるチャンピオントロフィーを沢山持って、やはり、こちらでもサッスーンカットが有名です。約三週間程勉強する予定で、その期間にウェラー、ロレアル(世界的ブランド)にも勉強に行きます。ちょうど現地の新聞に極東の日本から単独で来たとして地元のニュースにのりました。

日本の美容室もすべて欧風化して変わりますが、お客さんの毛質が異なる事、ヘアカラーに対する考え方がちがうことですべては同じ技術です。一番驚いたことはアツ毛を黒く染めることでびっくり。それに50〜60代のおばあちゃん達が

とてもおしゃれ。ケルンの町の老人達にはジーンズとセーター、ジャケット姿が多くファッションはあまり神戸と変わらないようです」とのお便りです。

●第1回マンスリーサロン開く



K. F. S. の定期例会を10月から開くことになり第1回マンスリーサロンが、10月8日、神戸商工貿易センタービル23FのF室で会員約25名非会員5名が集まり、ゲストに哲学者の細川董氏(写真上)を迎えて開かれた。

テーマは「人間生活とおしゃれ哲学」。内容的には、ギリシャ哲学をもとに、ファッションが生れるのは、遊びをもととする場で生れるもので、ギリシャでもプラトンの母は高級な遊女で、その遊び場から生れたファッションがアートと結びついて広がったこと。ファッションとエロスの関係を面白く話された。

★第2回11月12日(水) 午後6:30〜7:00 講師/山川勝彦 会場/貿易センタービル23階F室

★第3回12月10日(水) 午後6:00〜9:00 「K. F. S. クリスマスパーティ」生田神社会館4F大ホール 会費¥5,000

★K. F. S. メンバーによる P. R.

カット&パーマ

シオン美容室

神戸市長田区川西通4ノ11

tel (078) 691-1779

デザインルーム

ナカハラ

中原 武志

神戸市生田区元町通2丁目37 村田ビル

Phone (391) 4768

室内を演出する

神戸装飾 株式会社

神戸市生田区中山手通2丁目64ノ4

三宮販売部 Phone (331) 0557

神戸もともち

大丸

Phone 神戸 (078) 331-8121

ミセスのための婦人服

Vert ヴェール

伸和スタイル株式会社

神戸市灘区生田町3丁目17

Phone (241) 8691

チョコレートの

モロゾフ 株式会社

神戸市東灘区御影中町6丁目11番19号

Phone (851) 1594

コウベセンスで創る婦人靴
株式会社

TUKASA ツカサ

神戸市長田区細田町5丁目2ノ28

神戸化学センター5F Phone (691) 7739

株式会社 阿曾理容店

神戸営業所 神戸市灘区浜辺通5ノ2ノ1

神戸商工貿易センタービル11F tel (251) 3010

株式会社 理容アソ

大阪市北区小松原27 富国生命ビル1F

Phone (331) 2214

★神戸ファッション市民大学OBによるグループ
 <神戸のファッション都市化をめざす>

K. F. S. news 2

事務局/神戸市生田区元町通2丁目37村田ビル
 デザインルームナカハラ内 TEL 391-4768

K. F. S. 主催 第1回

女性のための“ファッション講座”開く 11月14日～ 12月2日迄

K. F. S. が、神戸に住む女性のための“ファッション講座”を企画。

最近のファッション情報過多の中にあつて、ともすれば、個性的なファッションが見失われがち。そこで本ものファッションを知ることは、節約時代といわれる今日こそ必要なことだと、K. F. S. の会員の中にスペシャリストのメンバーや、神戸のファッション界で活躍するゲストを講師に迎えて、インテリア、シューズ、美容、洋菓子、パン、服飾などのトータルファッション講座を11月14日から12月2日末金曜、火曜の夜6回にわたって開かれる。

会費も全講座を受けて1,500円と安く、婦人会館(神戸市総合福祉センター5F)で開かれるこの講座に一般女性の参加を募集している。行動するK. F. S. の新しいファッション活動で今後春秋行われ一般女性のファッション都市づくりへのアプローチにもなると期待されている。



講師の左 右
 小川 松宮隆男さん
 梢さん

時/昭和50年11月14日～12月2日

P. M 6:00～8:30

所/婦人会館/神戸市生田区橘通3丁目1

TEL 351-0861 定員 120名

(神戸総合福祉センター5F)

受講料/¥1,500<全講座6回分>

主催/K. F. S.

お申込み/受講希望者は官製ハガキに、住所・氏名・年令・職業を書いてK. F. S. ファッション講座係へ。

神戸市生田区元町通2丁目37 村田ビル
 デザインルームナカハラ

☎078<391>4768

または月刊神戸っ子へ☎(331)2246

11月14日(金)	畑 専一郎(神戸新聞論説委員)	「ファッション都市神戸と女性」
11月18日(火)	伊 藤 博(伊藤デザイン研究所長)	「本物と偽物—節約時代のファッション」
11月21日(金)	栗 原 俊二(㈱カープ) K. F. S. 高 月 昭子(建築家)	「良い靴の選びかた」 「住いの改造」
11月25日(火)	松 宮 隆男(㈱モロゾフ営業部長) K. F. S. 武 安 正彦(㈱ドンク神戸営業課長)	「ファッションと洋菓子」 「暮しとパン」
11月28日(金)	本 多 泰子(美容すずらん) K. F. S.	「おしゃれと女性心理」
12月2日(火)	小 川 梢(小川洋裁学院長)	「ファッションコーディネートを楽しむ方」

ニユース漫画〈神戸新聞「笑点」を
必死のパッチで描き続けて七、〇〇〇回（二〇年）

たかはしもう笑品集

内容

「最新カラーマンガ」(9頁)

「笑点20年」(36頁) 「似顔絵一〇〇人」(54頁)

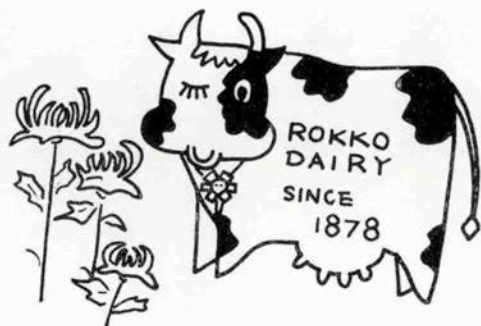
「ニユースマンガ家の一日」(4頁)

二、五〇〇円
送料二〇〇円

お申込みは「たかはしもう出版会」(月刊神戸っ子編集部内)

送金方法/太陽神戸銀行三宮センタービル支店普通預金二一五二七〇四「たかはしもう出版会」または月刊神戸っ子あて現金送金してください。

フレッシュな味。
神戸生れの六甲牧場



★喫茶店・洋菓子店に！

牛乳

生クリーム

ケーキ用クリーム

コーヒード用クリーム

各種アイスクリーム

ソフトミックス

★ご家庭に！

ヨーグルト

プリン・ジュース

フレッシュ牛乳

株式会社
六甲牧場

〒657 神戸市灘区篠原南町6丁目1-25
電話 神戸 (078) 801-6 0 0 0 (代表)

★ご用命しだい営業マンが直ちにお伺いします。

世界の福祉施設

—— 欧米の心身障害者を訪ねて ——

橋本 明著 <カラー8ページ、本文320ページ、定価 1,000円>
<社団法人家庭養護促進協会事務局長> 送料 200円



●福祉時代の幕開けです。あなたも一冊ぜひどうぞ！

主な内容

- 神戸からシアトルへ
- クライシス・クリニックス
- グッドウィル・インダストリーズ
- 里親発見活動
- フォースター・グランドペアレント
- ファースト・アベニュー・サービスセンター
- ボランティア・ビュロー
- 病院におけるボランティア活動
- レニア・スクール
- アメリカのグループホーム
- 社会福祉とPR活動
- 砂漠の中の老人の町
- ボーイズ・タウン
- パーキンス盲学校
- スボック博士の子供博物館
- アピリテイーズ
- ロンドンのバーナードホーム
- 奇蹟の町・ルルドを訪ねて
- コペンハーゲンの老人の町
- ベートル——西ドイツの障害者の町(ドイツ)
- ハット・ドルブ——未来を拓くオランダのコロニー(オランダ)

各書店で好評発売中！

振替口座 神戸四五一九六

お申込みは月刊「神戸っ子」編集部まで。神戸市生田区東町113の1 大神ビル7F TEL(331)2246

神戸の話題

ファッションフェアを終えて

飛躍することを 目標に

神戸市に「ファッション都市」という課題が提唱されて三年たちました私達もその路線にそってシ

ファッションフェアファイナル風景



第2景 オートクチュールの出品作



ヨーに参加して参りました。卒直に云って一回目は暗中模索、二回目はこれ又大失敗であったと考えます。これは出品者側もさることながらショーの構成に問題があった様です。その反省の上に立って議論百出「もっと専門的に」とか「次期シーズンのものを」等の意見も耳にしましたが、これは市民全体のフェアとして観客の方々にも楽しんで頂きたいという意向が強かったように思います。そうして行われた今年のフェアはやつと三回目にして「ショー」という

感じが致しました。作品についてはいろいろと批判もありますが、全体としては良い構成であったと思います。来年からは「続けることに意義」を見出すのではなく「飛躍すること」を目標に、もっと神戸市民の中から沢山の応募作品が集って日本中へ飛び立って頂きたいと思うのです。

これまで努力をされた各方面の担当の方々の御苦労を無にしない様、来年は作品内容のレベルアップを願っております。

中島 嘉子 △デザイナー▽

子供服も登場、コーディネートを楽しむ



神戸の話題

コウベファッション
デザインコンテスト

若い夢を托した 作品に魅力

コウベファッションフェア'75の催のひとつとしてスタートしたコウベファッションデザインコンテストはますます盛り上がり、全国的な話題を呼んでいる。

このフェアは、神戸市、神戸商工会議所、神戸新聞社が主催しているが、コンテストは主に神戸市



神戸大賞／真田峰子さんの作品

が担当している。

一般募集の結果、応募者は全国各地から、総数一、四五五点という応募ぶりである。つまり昨年度の応募数から比較すれば約五倍という増えかたである。

8月21日、デザイン画による第一次審査、9月19日、仕立上りの作品による最終審査が行われた。

審査員は小林洋子、水野正夫、カワシマ康照、佐野正男、長浜静枝、福富芳美、飯田守の各氏であり、厳選の結果、神戸大賞に既製服デザイン「婦人服」で真田峰子さん（大阪）が受賞した。

他にオートクチュールデザインでは、銀賞に羽柴省三さん（大阪）開沢講一さん（京都）、銅賞に辻本正さん（大阪）青木久容さ



右の2点は銀賞受賞作品

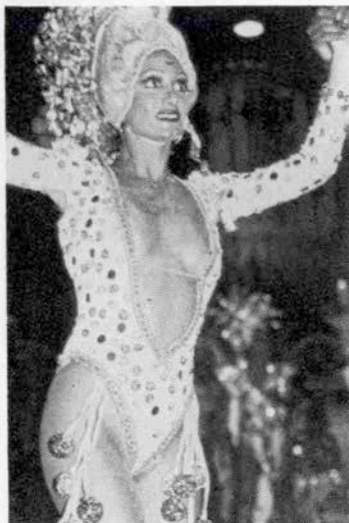
ん（大阪）入賞11名。既製服デザインでは「婦人服」で前記の真田峰子さんが金賞、銅賞に山下八千代さん（兵庫）林早苗さん（京都）金子正男さん（兵庫）入賞5名「子供服」で銀賞に興水睦子さん（神奈川）他に入賞1名、「紳士服」で銅賞に中嶋明さん（東京）入賞2名といった、受賞者が決定した。

デザイナーの中林洋子さんの評によれば、

「お役所主催のコンクールとはイキなもの、応募作品には生きいきとしたデザイン、若い夢を託したものが多く、レベル的にも高い、よいコンテスト」とこれからを期待している。

★神戸っ子

トラベルコーナー



神戸っ子海外旅行アトラダム

●リオのカーニバルと南米18日間の旅

＜昭和51年2月15日（日）～3月3日（水）＞

費用／¥890,000（子供¥525,000）

募集人員／20名

＜コース＞ 2月15日東京発ヴァリグブラジル航空でリマ着 2月16日リマ市内観光（ホテル・クリヨン） 2月17日リマからクスコへ＜インカ帝国の古都・ラ・メセド教会などみる＞ 2月18日＜マチュピチュで幻の城塞都市をみる＞ 2月21日～22日リマからリオデジャネイロへ＜ブエノスアイレス市内観光（ホテルプラザ）夜はタングをきく＞ 2月23日サンパウロ＜市内観光とイピランガ公園、ブタンタン毒蛇研究所など＞ホテルエルドラード。2月24日イグアス＜イグアスの流るる＞リオデジャネイロへ（ホテルグロリア）カクテルパーティ（ホテルグロリア2

月29日迄） 2月26日市内観光カーニバル舞踏大会へ。27日ブラジリアへ小旅行。28日フラメンゴコパチナバーナイバパナマで海水浴、夜はカーニバル前夜祭見物一晚中。2月29日仮装行列 3月1日自由行動。3月3日着東京。

お問合せ神戸っ子トラベル係 331-2246

または東急観光神戸営業所 331-7461

●神戸っ子愛読者優待海外旅行

①＜ハワイ6日間＞

¥176,000を¥120,000

（定価）（愛読者サービス料金）

12月11日（木）～12月16日（火）

コース／大阪→東京→ホノルル→東京→大阪

★到着日の昼食のみ

②＜クリスマス沖縄クルーズ7日間の船旅＞

英国豪華客船コーラルプリンセス号

<1万トン>

¥105,000から＜定価＞

¥80,000から＜愛読者サービス料金＞3回ローン可

12月24日（水）～30日（火）

コース／神戸港→沖縄＜海洋博見学＞一釜山

（観光）一神戸港＜船上クリスマスパーティーを開きます。＞

ゲスト／楠本恵吉他フィリピンバンド

12月31日（月）～1月6日（火）

お正月クルーズ ¥115,000から＜定価＞3回ローン可

＜コース／上と同じ＞ ¥100,000＜愛読者サービス料金＞

★お申込み

月刊神戸っ子トラベル係へ ☎078(331)2246

べ切は11月22日お早くどうぞ

＜団体15名以上割引有り＞

●ユニークな海外旅行いろいろ

④ロッテルダム号（オランダ客船 38,000トン

船旅

バンコック（51年3月8日）パヤビーチ遊覧

地→ロッテルダム号→香港（51年3月14日）

→広州 1泊2日のツアー予定中→神戸港（51年3月20日）

¥650,000 ファーストクラスバス付

定員20名 申込べ切日 昭和50年12月30日

⑧プリセンダム号（オランダ船1万トン）船の旅

¥250,000

定員30名申込べ切日昭和50年12月30日

④～⑧ともに取扱代理店は

ドッドウエルトラベルサービス神戸（251）

0021 大阪06（443）8722 東京03（211）2141

内線754

★お問合せお申込みは神戸っ子トラベル係へ

TEL 078（331）2246

＜香港4日間＞

¥65,000

④1月19日（月）～22日（木）

⑧1月25日（月）～28日（水）

大阪→香港＜九龍市街と半島一周ツアー・ポルトガル領・マカオツアー・古典舞踊と広東料理＞→大阪着

＜カナダ9日間＞

6月19日（土）9日間

¥358,000 ＜定員30名＞

東京→バンクーバー→ガルフリーバンフ→ジャスパー→バンクーバー→東京

＜全行程3食付／自由行動日の昼食除く＞

ホテル2人1室

＜カナダ9日間＞8月7日（土）～9日間

＜カナダ9日間＞8月12日（木）～9日間

●エア・オンリーも可能です。

＜カナダ・モントリオールオリンピック＞

7月23日（金）9日間

¥448,000 ＜定員40名＞

東京→バンクーバー→モントリオール→カルガリー→バンフ→ジャスパー→バンクーバー→東京

＜全行程3食付／オリンピックと自由行動の昼食は除く／ホテル2人1室＞

★お問合せ、神戸っ子トラベル係 ☎ 331-2246

世界最高の品質を
誇るアラガワの支店

いろいろなパーティーを
ご予算に応じてどうぞ



レストラン

砂時計

正午 ～ 夜9時まで
(年中無休)

生田区山本通1丁目35
東洋ハイツ1階

TEL 241-1857

潜り戸を通して
“花”のおふくろさんの味を



●こん立て●
たかのり弁当
やよいの里
花そうめん
みむろそうめん
天ぷら
おつくり
どびん蒸し
湯どうふ

和風季節料理

花

11:30A.M.～8:00P.M. 月曜日定休
さんプラザ地階 ☎ 331-0087



ロイド・グレラム夫妻

□神戸を福祉の町に△23

橋本

明

△社団法人「家庭養護
促進協会」事務局長▽

英語でお気軽にどうぞ

「外人相談室」 オーブン

神戸——この港町には遠く明治の頃より世界各国から多くの人たちが集まり、豊かな国際社会を形成し、異質の文化が隔合しながら街のシミズミまで溶けこんでいった。今日も神戸は国際都市と呼ばれるにふさわしく、今年の八月末現在でこの町には六二カ国、三万七二〇人の外国人たちが暮らしており、神戸市を含めた兵庫県全体では六九カ国、八万二千人にもものぼり、外国人の数は大阪府、東京都に次いで全国で三番目である。

外国人、とくに欧米人にとっては風土、文化、生活習慣などの異なる日本で生活するとなかなかスムーズに順応できず、言葉の障害もともなっているというところだったり、悩んだりしている人たちが少なからずみうけられる。外国に住むと自分の国とはかなり事情も違うし、家族そろって赴任してきた場合は子どもの教育で困ることも多い。留学や仕事で単身で生活せざるを得ない場合は異質の社会で孤立し、孤独感に悩むこともあるだろう。また最近のように船舶が大型化、オートメ化するなど数少ない乗組員は機械に囲まれた単調な航海で神経症的な症状をきたすことも報告されている。

こうして世界各国から神戸に集まった人たちが、いろいろな問題、特に人間関係のあつれきから生ずるストレスやノイローゼ、疎外感などに陥って誰か助言者がほしい時、夫婦や子どもの問題でちよっと相談にのってもら

いたい時、自分一人ではどうしていいかわからず、誰かの考えをきいてみたい時、そんな時に自分の国の言葉で気軽に相談できるところが国際都市神戸に「カ所ぐらいはぜひ必要と考え、この10月1日から社団法人家庭養護促進協会の事務所内にささやかながら英語による「外人相談室」を開設しました。神戸市内には八月末現在、アメリカ人六八二人、イギリス人四〇一人、オーストラリア人六〇人、カナダ人三一人、ニュージーランド人二人が住んでおり、京阪神だけでも数千人の英語を母国語とする人たちが生活しており、英語を理解できる他の国々の人たちを合わせると数万人にもおよんでいる。

英語で相談に応じるのはカナダ人女性のミセス・エベリン・グレラム(50)さん。カナダのトロント大学で教育学修士課程を終了し、カウンセラーとしての資格もあり、カウンセリングの経験も十分に積んでいる。ご主人のロイド・グレラムさんは現在関西学院大学の社会学部の先生。お二人とも以前11年間も日本に住んでいたというだけあってなかなかの日本通で、もちろん日本語も大変うまい。日本に住んでいる外国人の立場や問題もよく理解でき、人間としての魅力にも豊む素晴らしいカウンセラーである。

ミセス・グレラムさんの英語によるカウンセリングは毎週月・火・水曜日のAM10時〜PM4時。TEL〇七八—三四一—五〇四六 相談料面談、日時は前もって電話でご予約ください。

THE ASSOCIATION FOR ADVANCEMENT OF FAMILY CARE

ENGLISH COUNSELLING DIVISION



Mrs. Evelyn Graham

Counselling services for the English speaking members of the Kwansei community are now available through the Kobe office of the Association for the Advancement of Family Care. Personal, family, marital, educational or career counselling can be arranged by appointment Monday, Tuesday, or Wednesday from 10:00 a.m. to 4:00 p.m. with Mrs. Evelyn Graham. Individual, family, or group counselling will be arranged according to the needs of the members of the community. Confidentiality will be maintained.

Most people in the normal stages of growing and learning throughout life, and particularly under bi-cultural stress, feel the need for the counselling services of a trained and experienced counsellor, from time to time. Fortunately, now, in Kobe The Association for the Advancement of Family Care is offering again through its office a service which is vital to the English-speaking community.

The Association for the Advancement of Family Care is a Japanese organization (Katei Yogo Sokushin Kyokai) with an office in Kobe at The Kobe City Fukushi Centre on the Second Floor. The address is 3-1, Tachibana-dori, Ikutaku, Kobe, which is close to Kosoku Kobe station of the subway. Kosoku Kobe is the second stop west from Sannomiya and the Fukushi Centre is opposite Minato-gawa Shrine.

The Association is incorporated under Japanese law and is funded by grants from all levels of government, private donations, and membership fees. The Association has recognized the needs of the non-Japanese members of the community for counselling and is offering space and office facilities at the Kobe office.

Mrs. Evelyn Graham is a graduate of the University of Toronto with a Master's degree in Adult Education and Counselling. She is on leave until June 1976 from a Secondary School Counselling position in Toronto, Canada. She is qualified to counsel adults, families and adolescents. For the past four years, she has been a full-time counsellor in an inner-city school with a case load of students, teachers and families. She is eclectic in approach to theory and method. Mrs. Graham has lived in

Japan for eleven years and speaks Japanese. She has been married for twenty-six years and has two daughters aged twenty-two and twenty-four. Her younger daughter is in Montreal, Canada and her older daughter is in Tokyo. Her husband is on sabbatical from The University of Toronto where he is an associate professor of the Faculty of Social Work. He is teaching at Kwansei Gakuin University and conducting research this year.

Mrs. Graham has experienced family life in various parts of Canada and in Japan, where four years were spent in the Tokyo area and seven years in the Kwansei. She is acquainted first-hand with problems in education and family life in a bi-cultural situation. Her counselling experience has been in a multi-racial, multi-cultural school and community. She is interested in organizing volunteer counsellors, as well as arranging for a qualified counsellor for the Kwansei community who can continue the service beyond June 1976.

The counsellor and location guarantee for the client a non-sectarian, private, and confidential situation in which to work out solutions and alternatives to problems of human relations and growth. Counselling fees will be charged according to income and number of dependents. Applications for interviews are encouraged by telephone (078) 341-5046, or at the Kobe Fukushi Centre with Mrs. Evelyn Graham B.A., B.Ed., M.Ed., Counsellor.
Mrs. Evelyn Graham B.A., B.Ed., M.Ed.

- Master's degree in Adult Education and Counselling.
- Permanent specialist's certificate in Guidance and Counselling and Permanent specialist's teaching certificate in Psychology in the Province of Ontario, Canada.
- Completed Book V of the Naganuma Course of Japanese Language in 1962.
- Attended two summer seminars on Marital Counselling at the Institute of Personal and Family Counselling, Banff, Alberta, Canada.
- On leave from the Counselling Department of George Harvey Secondary School, Toronto, Ontario, Canada for one year 1975-6.

心このころ LOLOKOOBE

神戸の大洪水

14 あおば しげる

★全市泥海と化し、交通機関すべて杜絶

阪神間は全国でも最も「住みよい所」、「自然災害の少ない所」と昔からいわれ、おわれ神戸市民もそのことを心のどこかに受けとめていくぶん満足気に暮らしているのではないか——という気がするのだが、昭和初期の同市民にとって忘れることのできない大きな自然災害は室戸台風（昭和九年）時の災害と阪神大風水害（昭和一三）の二つだろう。室戸台風は九月二日の未明室戸測候所の風速計を、瞬間風速六〇メートル（本年十月五日八丈島を襲った第一三号台風は風速六八メートル）を記録させたまま、その勢いで淡路島を縦断して阪神地区をまともに突き抜いたのである。雨量はさほど大きくなかったが、吹きまくる烈風とあわせて満潮時の大潮がわざわいして兵庫県下では尼崎市はじめ各所に水害が続出、



被害の後始末に忙しいさう前

死者・行方不明二六六、重傷三二一、軽傷一三〇四というおびただしい被害者を出した。今日ほど観測網が完備していなかったといっても、ラジオは前夜から台風の前ぶれであると報じ、暴風警報を発していたのだが、案外大したことはあるまいと独り合点をしてその夜を過ごした人々が多かったため、余計にみんなを恐怖のどん底にたたき込んだものだった。同台風の死者二六六人は本県の災害史上最大の惨事であったが、それから四年後神戸市はじめ阪神間を、それを上回るかに上回る大風水害が襲った。

昭和十三年七月のことである。この年の梅雨は実によく降った。六月中旬頃から毎日霖雨が降り続いた。そして最後の三昼夜は車軸を流すような大雨が寸時の切れまなく、降り続けたのである。おかげで市内の河川はもちろん、日頃は溝（みぞ）に過ぎないようなところまでことごとく泥流がはんらんする始末で、たちまち各所で大洪水、大崩壊という予感が全県民の心をとらえた。特に神戸市と阪神間は雨量が多く、住民たちはじっとしておれない不安におそわれていた。神戸市民のこの不安はまず灘方面から現実となった。七月五日午前九時四〇分、灘警察署長は大石川・摩耶山ろく一帯に危険が切迫したことを警察本部に電話をしたのち、地元住民、避難命令を出した。つづいて市内名所に山津波や河川のはんらんによる被害が続出した。なかでも住吉川（現在東灘区）と宇治川（生田区・三越百貨店付近）の一带の被害はものすく、住吉川下流西の国鉄住吉駅付近は山崩れの土砂で埋まり、死傷者もかなり出たし、三越百貨店付近も流れ着く土砂や家屋の破片でみるもむざんな状況を呈し



流されてきたゴミが山積みになった元町通

た。一時はひざまで没する流水のため、地上が歩けず、国鉄の高架線上を群集が右往左往したものである。当時の神戸新聞は、「全神戸泥海と化す」という見出しを大々的にかかげ、「家屋倒壊流失相次ぎ死傷算なき大惨状！全市の交通機関全く杜絶」と報じている。筆者は当時須磨区千守町に住んでいたが、ご多聞にもれずわが家も裏山から流れ下ってくる奔流のためたちまち一階は土砂で埋まり、やっと二階へ逃げて命を全うした始末だった。父と妹はその頃病臥中だったので私たちのあわてようは格別だった。今でも当時のことを追想すると、恐怖で身ぶるいするほどである。日頃はあるかないかわからぬほどの溝の流れが、たちまち大河に変ぼうする水自体の恐ろしさをまのあたり見せ付けられたものである。

県下の被害は、死者四八一人、行方不明七六人、重傷者三二二人、家屋の流失一九五五、全壊四〇三九にのぼり、床上に土砂が推積した家屋は一万三四〇六戸に達したが、先の室戸台風に倍する被害である。室戸台風の際は、警察官に犠牲者がなかったけれども今回は二人の殉職者を出した。灘署の植野巡査部長と林田署の福田巡査部長の両氏である。警察官だけでなく、住吉村（現在住

吉町）では住民の避難誘導や救護にあたっていた消防組員に犠牲者が出た。全市に無残な爪跡を残した豪雨が去ると、一転して焼けつくような真夏の太陽が照りつけた。やれやれと思う間もなく、各所の復旧を急がねばならなかったが、それにも増して飲料水の補給が緊急の課題であった。市内のトラックはもとより、比較的被害の少なかった西宮・尼崎から給水用自動車がビストン運転され、遠く大阪からは給水船が来援してくれた。ところが、これに目をつけた悪徳商人が現われ、飲料水汲み置き用バケツがうなぎ昇りに値上がりしたものだ。このため関係警察署では暴利取締りを強化し、葺合署では目に余る者七人から罰金を徴し、四人に警告を発した。そのうえ、悪疫の流行を防ぐため、県、市衛生班の活動も多忙だった。

さて、室戸台風とこの阪神大風水害だけが、県下の風水害のすべてではない。中小規模程度の被害は戦前、戦後を通じて「忘れられた頃」にかならず起きていることは、毎年梅雨期が台風シーズンを思い返してみれば、だれしも気付くところである。そのためには平常の備えが大切なわけだが、人間はとくく自分につごうの悪いことは忘れがちで、その結果思わぬ災害を招きがちである。

「河川から一町以内のところに住むのは危険だ」という昔からの言い伝えがあるが、昔の人は早くもかずかずの体験で水害の恐ろしさを身にしみて知っていたのである。私自身も現在住吉川沿いの美術館に勤務しているが、この庭園に配置されている多くの庭石の中に、昭和一三年の風水害の時、住吉川から流れ込んだ巨石がかなりあることを眼前に見ながら、山津波や河川のはらんによる水害の恐ろしさを時々思い返すしだいである。

美しい六甲山系を背後に持つ、美しい市街コウベ。だが、いったん豪雨や強烈台風に襲われれば、たちまち危険状態になることを全市民は忘れてはならぬし、日常の官民一体の防備活動が必要なのである。